

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立築瀬小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 81人

② 算数 81人

#### 5 留意事項

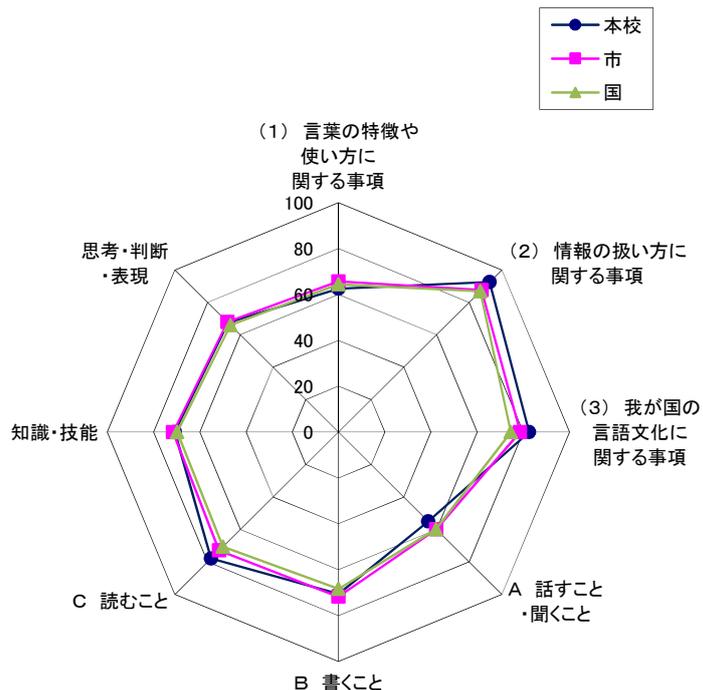
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立築瀬小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	62.5	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	92.5	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.5	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	55.0	59.9	59.8
	B 書くこと	70.6	71.8	68.4
	C 読むこと	77.9	72.9	70.7
観点	知識・技能	70.8	71.5	69.8
	思考・判断・表現	67.5	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を3.2ポイント下回っている。</p> <p>○主語と述語の関係をつえる問題に対しては、全国平均や県の平均を大きく上回っている。</p> <p>●漢字の熟語について課題が見られる。</p> <p>●話し言葉と書き言葉との違いに気付き、相手に分かりやすい話し方を問う問題に対して、全国平均や県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・今後も、語彙を豊かにする活動や文章の中で言葉のもつ役割について考える活動を充実させていくとともに、書く活動を意図的に取り入れていく。</p> <p>・漢字の習得については、文字としてだけではなく言葉としてとらえさせ、意味を考えて正しく使うようにさせたい。音読みと訓読みに加えて熟語としての読みも合わせた指導を行っていく。</p> <p>・説明や発表する活動において、相手意識を強くもつとともに、話し合い活動や質疑応答の時間を増やし、互いに話し方についての評価活動(振り返り活動も含めて)を授業の中で行っていく。</p>
(2) 情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を4.9ポイント上回っている。</p> <p>○情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の仕方を理解しているかどうかを見る問題では、92.5%の高い正答率であった。</p>	<p>・今後も授業の中で、情報と情報を関連付けて読み取ったり、図を用いて関係性をまとめたりする活動を取り入れていく。また、総合的な学習の時間や社会などの他教科、他領域でも、情報の読み取りについて文章化するなどして、教科横断的に学習を進めていく。</p> <p>・今後もカードやパンフレットなどの資料を読み取る際には、内容だけではなく情報と情報の関係性を考えるような活動を取り入れていく。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を3.9ポイント上回っている。</p> <p>○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くことができるかどうかを見る問題では、82.5%の正答率であった。</p>	<p>・今後も学校全体として取り組んでいる読書活動を大切にするとともに、家庭での家読や親子読書への取り組みの啓発を図っていく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を4.9ポイント下回っている。</p> <p>●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題では、正答率が県の平均を8.7ポイント下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・今後も授業やトークタイムで話し合い活動を行っていく。</p> <p>・話し合いのときには、事前に材料を分類したり、関係づけたりして伝え合う内容を検討させるようにする。</p> <p>・資料を活用する等、自分の考えを分かりやすく伝えるための表現の工夫を見つけ、自分の発表にそれらを取り入れる活動を行う。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を1.2ポイント下回っている。</p> <p>○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする問題では、86.3%の高い正答率であった。</p> <p>●自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫する問題では、市の平均を3.5ポイント下回り、課題が見られる。</p>	<p>・今後も思考ツール等を活用して、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にする活動を行っていく。</p> <p>・字数や内容などの条件に合わせて書く学習を意図的に取り入れていく。</p>

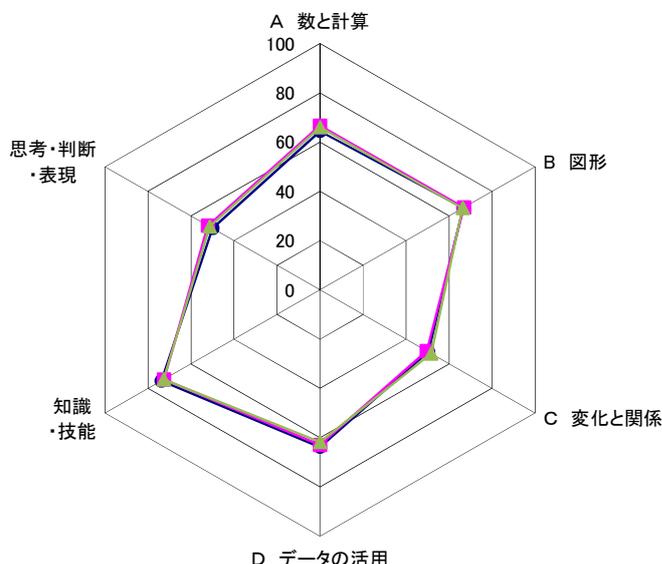
C 読むこと	平均正答率は、市の平均を5.0ポイント上回っている。 ○特に、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える問題では、正答率が市の平均を9.1ポイント上回った。	・今後も、物語文の学習において、登場人物の人物像、登場人物の相互関係や心情について読み取る活動を行っていく。その際、文章中に描写を根拠を明らかにさせる。
--------	---	--

# 宇都宮市立築瀬小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.4	66.7	66.0
	B 図形	66.6	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	50.4	49.6	51.7
	D データの活用	63.8	62.9	61.8
観点	知識・技能	73.8	72.6	72.8
	思考・判断・表現	50.0	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国平均より下回っている。</p> <p>○数量の関係について口を用いた式に表すことができるかどうかを見る問題では、正答率が県や全国の正答率より上回っており、問題に合うように立式する力が身に付いていると言える。</p> <p>●除数が1/10になった時の商の大きさについて、正しいものを選ぶ設問の正答率が県の正答率より6.1ポイント下回った。除法における除数と商の大きさの関係についての理解が不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗法や除法における積や商の大きさの関係について、具体的な数量を示して比べさせるなどして、知識の定着を図っていく。</li> <li>実生活と結び付けた問題場面や活動を取り入れ、知識の定着を図っていく。</li> <li>基本的な問題に加え、習熟度に合わせて発展的な問題にも取り組ませることで、力を高めていく。</li> </ul>
B 図形	<p>平均正答率は、県、全国の平均よりやや上回っている。</p> <p>○円柱の展開図について、辺として正しいものを選ぶ問題において、正答率は県の平均より3ポイント高かった。また、直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題では、正答率が県の平均よりも3.4ポイント高かった。</p> <p>●五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く問題では、正答率が県の平均より2.9ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形の学習に入る前には、既習事項を確認し、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>立体図形を学習する際には、立体模型などで実物を操作するなどして、視覚的に捉えられるようにしていく。</li> <li>語句について、図形のどの部分を指すのかを色分けして示したり、既習内容を復習したりするなどして、知識の定着を図っていく。</li> </ul>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国平均よりやや下回っている。</p> <p>○速さを求める問題においては、国の平均より5.9ポイント高かった。</p> <p>●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題について正しく答えられた児童は、国の平均より7.2ポイント低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実生活と結び付けた活動を取り入れ、知識の定着を図っていく。</li> <li>文章問題を立式する前に、図に表すことで問題のイメージをもって解くことができるようにしていく。</li> <li>自分の考えを、分かりやすく文章で表現することができるようにするために、例文や、定型文なども用いて文章を書く機会を設けていく。</li> </ul>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均を上回っている。</p> <p>○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題については、国の平均より4.8ポイント高かった。</p> <p>●示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する問題は、国の平均より4.3ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を正しく読み取り、順を追って話し合いながら解決していく活動を、授業に取り入れていく。また、算数以外の教科においてもデータの活用を意識して、指導するようにする。</li> </ul>

## 宇都宮市立築瀬小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

#### 1 生活習慣について

○「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを普段の生活に役立てていますか」の肯定的回答率は、全国平均より4ポイント以上、また県平均より上回っている。健康に対する意識の高さ、また学んだことを実践しようとする行動力の高さがうかがえる。

#### 2 自分自身や他人や社会との関わりについて

●「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的回答率は、79.5%と低く、全国平均・県平均より5ポイント以上下回っている。教科の学習の時間だけではなく、学級活動や帰りの会等でも互いの良さを認め合い、賞賛する場を設定しているが、引き続き力を入れて取り組んでいきたい。

○●「新聞を読んでいますか」の肯定的回答率は、全国平均・県平均を上回ってはいるが、12%であった。情報収集能力の一つでもあることから、今後も新聞を読む大切さについて指導していきたい。

●「友達関係に満足していますか」の肯定的回答率は81.9%で、全国平均・県平均より9ポイント以上低い。教育相談などで一人一人の話を聞く時間を確保したり、学級活動等でよりよい関係を築く活動を実施しているが、今後も引き続き行っていきながら、スクールカウンセラーと連携し、児童によりよいアドバイスなどもできるよう取り組んでいきたい。

#### 3 学習について

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の回答では、週3日以上使用している児童の割合が、66.3%と全国平均・県平均よりも5ポイント以上上回っている。今後も、引き続き授業の中で使用する場を設定し、効果的な学習ができるよう取り組んでいきたい。

○●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の肯定的回答率は71.1%と全国平均・県平均を3ポイント以上上回っている。一方で、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と、「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」の肯定的回答率は共に全国平均・県平均を8ポイント以上下回っている。発表するための工夫などの意識はありながら、発表前の課題解決への取り組み方やまとめ方、各教科からの学びの活かし方が課題であることが分かる。学び方について指導し、各教科との関連を意識できるように授業づくりを行い、児童が様々な教科が繋がっているということ理解できるように指導していきたい。

○●「勉強は好きですか」については、国語、理科、英語の肯定的回答が全国平均・県平均を上回っている。また、「勉強は大切だと思うか」については、国語、算数、英語の肯定的回答率が全国平均・県平均を上回るかほぼ同等である。(理科の質問項目はなし。)それぞれの教科の学習の大切さを理解していることが分かる一方で、「算数の勉強は好きですか」の肯定的回答率は59%と低い回答率となっている。児童が興味を持って取り組んでいけるよう、少人数指導担当と協力し、教材研究に力を入れていく必要がある。「英語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答率は86.7%と全国平均・県平均を5ポイント以上上回っていることから、今後もALTと連携し分かりやすい授業の展開を続けていきたい。

## 宇都宮市立築瀬小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的に学ぶための学習課題の設定	・各教科の必要な場面で精選した資料の提示をし、学習理解を深めている。 ・様々なICT機器の効果的な活用をし、児童の興味・関心を高めると共に、学習の効率化を図っている。	・円グラフの割合を読み取りは、国の平均を3ポイント上回り、折れ線グラフの特徴を読み取り、条件に当てはまる数を記述する問題は、国の平均を4.2ポイント上回った。 ・国語では、「情報と情報との図や語句を用いた関係の仕方の理解を見る」設問では、国の平均を5.6ポイント上回り92.5%の高い正答率であった。
児童同士が学び合える活動の工夫	・学習形態を工夫し、児童一人一人の考えを伝え合う授業の展開をしている。 ・トークタイムを実施し、多面的なものの見方・考え方を育むと共に、話し合うことの楽しさを味わわせている。	・「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。」の質問に国の平均を4.4ポイント下回った。 ・国語の「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする」設問では、国の平均を6ポイント上回った。
主体的な学びにつなげる振り返りの充実	・ふり返り「や・な・ぜ」の活用し、学習から考えたことを表現する時間を確保し、友達と共有し新たな気付きにつなげている。	・国語の「読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかをみる」設問では、国の平均を7.9ポイント上回った。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科の結果から基本的な知識の定着や文章や資料・図などに対する自分の考えをもち、それを文章などで表現する力も必要であると分かった。	・基礎学力の定着 ・自分の考えをノートにまとめたり、伝えたりする授業の展開	・学習の基礎となる知識をよく押さえて授業を展開する。モジュール学習の時間を復習に活用していく。 資料や図を活用する場面を意図的に設定し、児童がそれらから分かったことを話し合ったり、自分の言葉でノートにまとめたりする機会をこれからも多く取り入れていく。